

平成27年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

免許状更新講習 ～生徒指導・学級経営に活かす体験活動～

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童・生徒の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な体験活動の指導技術を身に付ける。また、学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

2. 事業の概要

(1) 期日

平成27年8月19日（水）～21日（金） 2泊3日

(2) 参加者

① 募集対象・人数

小学校教諭（中学校教諭も受講可）・40人

② 参加人数

27人

(3) 講師等

① 講義1：「体験活動の意義と学習指導要領」

内容：子供の現状を踏まえ体験活動の必要性と教育効果、また、教育課程における「体験活動」の位置づけに関する講義

指導：國學院大學 人間開発学部 教授 杉田 洋 氏

② 講義・実習：「体験活動の導入とその指導法」

内容：ねらいに応じた体験活動の計画の仕方や指導のポイントを理解する講義・実習

指導：国立吉備青少年自然の家 次長 高藤 佳明

③ 実習：「カッター活動の教育効果と実習」

内容：吉備のフィールドを利用した体験活動や教科での学習を通して、子供同士の関係を深めるための指導法を学ぶ実習

指導：国立吉備青少年自然の家 主任企画指導専門職 宇江 賢

④ 講義2：「教育の現状と課題」

内容：子供をとりまく現状から、現在の教員が期待されていることに関する講義

講師：岡山県教育庁義務教育課 指導主事（主任） 新田 治彦 氏

⑤ 実習：「火起こし体験と野外炊事の理論と実践」

内容：達成感のある原始の「火起こし体験」を体感するとともに、野外炊事を通して子供への指導技術、安全管理の視点等について理解する実習

指導：国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職 徳永 正樹

企画指導専門職付 黒田 雅秀

⑥ 実習：「オリエンテーリングの指導法と実践」

内容：「オリエンテーリング」を活用し、集団と個の関わりについて意識づけを明確にするなど実践的な指導方法を習得する実習

指導：国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職 大下 展弘

⑦ 講義3：「集団宿泊体験活動の企画・運営」

内容：国立吉備青少年自然の家で宿泊体験を実施している小学校の取組から意義や指導のポイント、その効果等を理解する講義

指導：国立吉備青少年自然の家 所長 越宗 倫生

(4) 企画・運営のポイント

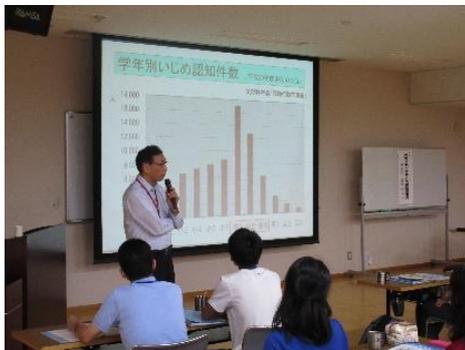
- ① 講習の最初に「仲間づくり」をする際に心がけること（ルール）をまとめたビーイングを作成し、その後の活動で随時ビーイングに基づいた話し合いの場を設け、最終日に発表し、情報の共有を図れるようにした。
- ② 副題を「生徒指導・学級経営に活かす体験活動」としたところから、「仲間づくりを目的とした体験活動」をテーマに講習内容を企画した。
- ③ 参加者自身が児童の立場に立って「仲間づくり」の過程を体験できるように体験学習に基づいた講習を計画し、参加者自身の仲間づくりを図れるようにした。

3. 活動の内容等

(1) 日程

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
5/14 (木)	受付	開講式	講義1 「体験活動の意義と 学習指導要領」	昼食・ 休憩	講義・実習 「体験活動の導入と その指導法」	休憩	実習 「カッター活動の教育効果と実 習」	夕食・休憩	情報交換 会	入浴	就寝			
5/15 (金)		講義2 「子供の現状と課 題」	休憩	実習 「火起こし体験と野外炊事の理 論と実践」	休憩	実習 「オリエンテーリングの指導法 と実践」	夕食・ 休憩	自習・休憩	入浴	就寝				
5/16 (土)	片付 け・ 移動	講義3 「集団宿泊体験活動 の企画・運営」	休憩	昼食	評価 「履修認 定試験」	閉講 式								

(2) 活動の状況



【体験活動の意義と学習指導要領】



【体験活動の導入とその指導法】



【カッター活動の教育効果と実習】



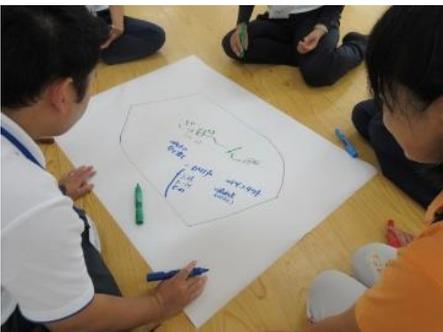
【カッター活動の教育効果と実習】



【教育の現状と課題】



【火起こし体験と野外炊事の理論と実践】



【オリエンテーリングの指導法と実践】



【集団宿泊体験活動の企画・運営】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① 活動における「ねらい」の重要性と、その活動の「ふりかえり」の大切さを学びました。
- ② 体験活動の意義・必要性について改めて感じました。実施に向けての問題点などを考えて、良さを伝えていきたいと思いました。
- ③ 自分と子供たちの関わりを大事にしたいと思いました。また、職員同士のつながりもとても重要だと思いました。
- ④ 知識理解ではなく体験活動を通して実践後の気づき、新しい課題を発見することができました。

(3) 成果

- ① 参加者の方々は、実際に自分たちが体験活動を行うことで子供たちの目線になって活動をふりかえることができた。さらにピーニングを取り入れることで、活動に対する「ねらい」と「ふりかえり」の重要性を再認識する機会となった。
- ② 「体験活動の意義と学習指導要領」の講義では、小学校の特別活動に位置付いた体験活動を取り入れた事例を多く紹介することで、「体験活動」の有効性や学習指導要領での位置付けを理解することができた。

(4) 今後の課題

参加者の満足度は非常に高かったが、参加人数が定員に満たなかった。今後は広く広報できるような方策をとり、もっと多くの方々に体験活動の意義と教育活動のつながりについて理解する機会を提供していきたい。

担当：企画指導専門職 徳永 正樹